令和８年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立西新井中学校
校長　　石井　秀生

１　学校教育目標

１ よく考え知性を磨く　【知性】
２ 学びあい品性を高める【品性】
３ すすんで体力をつける【体力】

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身につけ、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ・確かな学力の定着と体力・健康な体を育む学校 ・生徒が安心して楽しく学び、豊かな人間性を育む学校 ・保護者や地域と連携、協力した教育活動を推進し、保護者、地域の信頼に応える学校
○児童・生徒像	夢や目標に向かい、自分で考え判断し、表現、行動できる生徒 ・心豊かでたくましく、社会性を身に付けた生徒 ・意欲的に学習に取り組み、基礎学力を身に付けた生徒 ・自らのよさを発見し、主体的に行動できる生徒(自尊感情や自己肯定感を育む)
○教師像	人権感覚を身に付け、生徒、保護者、地域から信頼される教職員 ・生徒を第一に考え人権感覚、教育的愛情をもち、生徒や保護者に信頼される教職員 ・学習指導要領に則り、意欲的に授業改善に取り組み、わかる授業を実践できる教員 ・自己研鑽に努め、研修や課題解決に積極的に取り組む教職員

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】
本校は生徒数が 577 名で 17 学級からなる大規模な学校であり、教育活動全体においても活気のある学校になっている。生徒たちはにこやかな表情で元気よく挨拶をして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等にも意欲的に取り組んでいる。一方で不登校生徒や特別な支援が必要な生徒の割合は高く、個々の課題に応じた対応が必要とされている。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】
＜成果＞○学校行事、宿泊行事、部活動などに役割を果たして楽しむことができた生徒の割合は平均して約 90.3%であり、学校生活等が充実しているという肯定的回答も 94.8%だったこと。
○生徒が主体となって校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。
＜課題＞○学力向上・基礎学力定着のために、生徒が分かる授業を実践するとともに、学ぶ楽しさを感じさせて、主体的に取り組める授業改善が必要である。
○各種行事や日常生活の場で生徒が主体的に活躍できる場面を多く設定できるよう工夫していき、魅力ある学校づくりを実践する。
○きめ細やかな不登校対応を推進する。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R：令和				
		R６	R７	R８	R９	R１０
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応	○	○	○	○	○
3	小中連携の推進と授業改善	○	○	○	○	○

５　令和８年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準（目標通過率）	実施結果（通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
学習意欲の向上と 確かな学力の定着	区学力調査各教科　65%以上 定着度確認テストで 正答率　各教科　65%以上	自己評価の際に記入		

Ｂ　目標実現に向けた取組み

新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容（誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標（＝数値）（いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実	全教科	年間	「足立スタンダード」を活用した授業を行う。 授業力向上を目指し、副校長を中心に組織的にOJTに取り組む。	生徒の授業評価（わかりやすさ・「わかりやすい」「めあての掲示」「やるべきことが明確で意欲的に取り組める」）	肯定的回答 各項目 ９０％以上	自己評価の際に記入		
2 継続	ICT機器 AIﾄﾞﾘﾙの 有効活用	５教科 中心	年間	GIGA スクール研究校として教員に意識的に授業内の場面に応じて生徒タブレットの活用を図り、個々に応じた対応を図る。	生徒の授業評価（学習用タブレットなどのICT機器を活用した授業） 教育DX推進プラン実績値	肯定的回答 ９０％以上 実績値の目標値以上			

3 継続	放課後補充教室	３教科中心	年間	学習コンテストや各教科担任が作成した確認テスト等を行い、不合格生徒に放課後 ICT 機器などを使用して補習を行う。	区調査問題を活用した、定着度確認テスト	定着度確認テストで、 正答率各教科65%以上	自己評価の際に記入
4 継続	学びの環境整備	全教員	年間	すべての生徒にとって「分かる」を実感できる教室環境の整備 また、生徒アンケートを通して生徒の自発的な活動を促す。	生徒アンケート	アンケート肯定的回答８０％	

重点的な取組事項－２	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応			
Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
教育活動全般を通して生徒の自尊感情を醸成する。	生徒の自尊感情に関するアンケートの肯定的評価を平均で85%以上にする。	自己評価の際に記入		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
生徒の自己肯定感を高める	区調査や学校評価アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的回答の生徒の割合 80%以上。	様々な教育活動を通して、　自分はもちろん、相手も含めお互いに認め合い受け入れられるようにする。 年間２回自己評価アンケートを実施する。	自己評価の際に記入		
別室登校の 効果的な取組	ＳＳＲ登校によって、不登校生徒が登校できるようになったか。 不登校生徒を全体の 9%以下に減少させる。	不登校、不登校気味の生徒にＳＳＲ登校について情報提供を行い、教室復帰を促す。			

外部諸機関との 連携の強化	ＳＣ、ＳＳＷを交えた校内の教育相談部会を週に１回以上開催し、生徒の状況を学校全体で把握する。	校内委員会を通じて、こども支援センターげんきと連携して、あすテップやチャレンジ学級、カタリバやキッズポート等外部の居場所との連携の強化を図れたか。	自己評価の際に記入
ボランティア活動の 推進	ボランティア活動参加生徒延べ 200 人以上 積極的にボランティアに参加できたとの肯定的割合 80%以上	地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。	

重点的な取組事項－３	小中連携の推進と授業改善			
Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
学習指導要領や足立スタンダードを基にした授業の実践 ３校共課題の書く力、表現力を育む取組や授業の実践 小学校２校との連携の充実と関係強化	授業の実践は教職員の肯定的評価を 100% 表現する力の項目の肯定的評価を 80%以上 小学校との連携充実は教職員の肯定的評価を 90%以上	自己評価の際に記入		

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
学習指導要領や 足立スタンダードを基にした授業の実践	「生徒の主体的・対話的で深い学び」や「ねらい」「振り返り」の実践ができているか。	小中連携の研究授業での実践 管理職や教科指導専門員の授業観察時おける実践	自己評価の際に記入		
表現する力を付けられる取組の実践	表現力を付けるための取組場面を多く設定できたか。 表現する力を意識した授業実践の教員肯定的回答 80%以上	年度当初に小中３校で連携し各教科、領域、行事等において、具体的な取組を決め、書く場面、表現する場面を多く設け、実践させる。			

教科以外の生活指導や家庭学習等についての話し合いや研修がもてるようにする	教職員の肯定的評価を90%以上	授業参観後に分科会内で教科だけでなく生活指導等の情報交換がもてるようにする。 「ICT 機器の活用」「家庭学習の定着」「サマースクール」等についての具体的な実践例の共有や研修の実施。	自己評価の際に記入

６　まとめ

自己評価の際に記入